

『本当の思いやり』 コリント人への手紙第二2章1～11節 2016.2.14(礼拝説教より)

『私は大きな苦しみと心の嘆きから、涙ながらに、あなたがたに手紙を書きました。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、私があるあなたがたに対して抱いている、あふれるばかりの愛を知っていただきたいからでした。』 Ⅱコリント 2:4

◆パウロが、嘘つき呼ばわりされ、非難中傷されてまで、コリント教会行きの訪問予定を変更したのは、「思いやりのため」だった(23～24節)という。信仰的・道徳的問題解決のために厳しく叱責・指導されていたコリント教会は、未だに問題の解決ができないままだった。パウロは、聖書的に正しいことや、真理をつきつけ、「まだなのか！」と頭ごなしに叱ることも出来たが、あえてそうしなかった。それこそ神が導いた、解決への最善の方法だった。非のある相手の気持ちや利益を最優先に関わること！これこそ本当の思いやりの第一歩である！「情けは人のためならず！」…二千年前からこの神の知恵は伝えられて変わらず、私たちを、想像を越えた祝福に導いてくださる。

◆第二に、本当の思いやりとは、本気で相手を思うこと。コリント教会には、問題の張本人がおり、パウロは徹底してその罪を指摘し、「その人」は悔改め、改心した。聖書は(アナニヤとサツピラ夫妻のように)名指して罪を指摘する場合もあるが、ここでは問題ある人の名も挙げず、「その人(6～8節)」に対する温かい配慮を求めた。罪や悪は確かに「間違っている！」と指摘する必要がある。しかしそれは「言ってやった！あ～スッキリした！」ではなく、どこまでも相手の成長を願い、こちらも心痛めて、思いやりと愛をこめて、本気で相手を思う時に伝わるもの。

◆そして本当の思いやりとは「赦す」こと。「赦す」時、3種類の人が祝福を受けると言う。①赦された人(ホッと一安心)！②赦した人(苦々しい思いからの解放)！③周囲の人(2人を案じて見守っていた人たちの顔に笑顔が広がる)！パウロは、この3つの祝福に加えて警告を与える。赦さない心を持ち続ける時、「サタン」の策略(11節)に陥ると。赦さない心は悪魔の入る扉を開き、非のある人の前に謙り、赦して思いやり、本気で相手の益を願時、神の慰めの扉が大きく開かれる！

★今週、慰めの神の臨在と助けを信じて、本気の思いやりをもって接する必要がある「相手」は誰でしょうか？